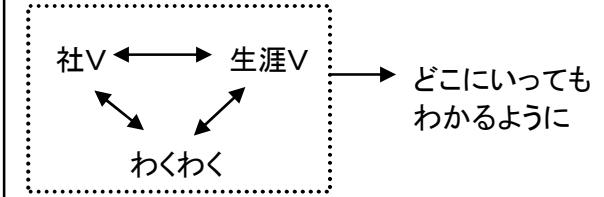
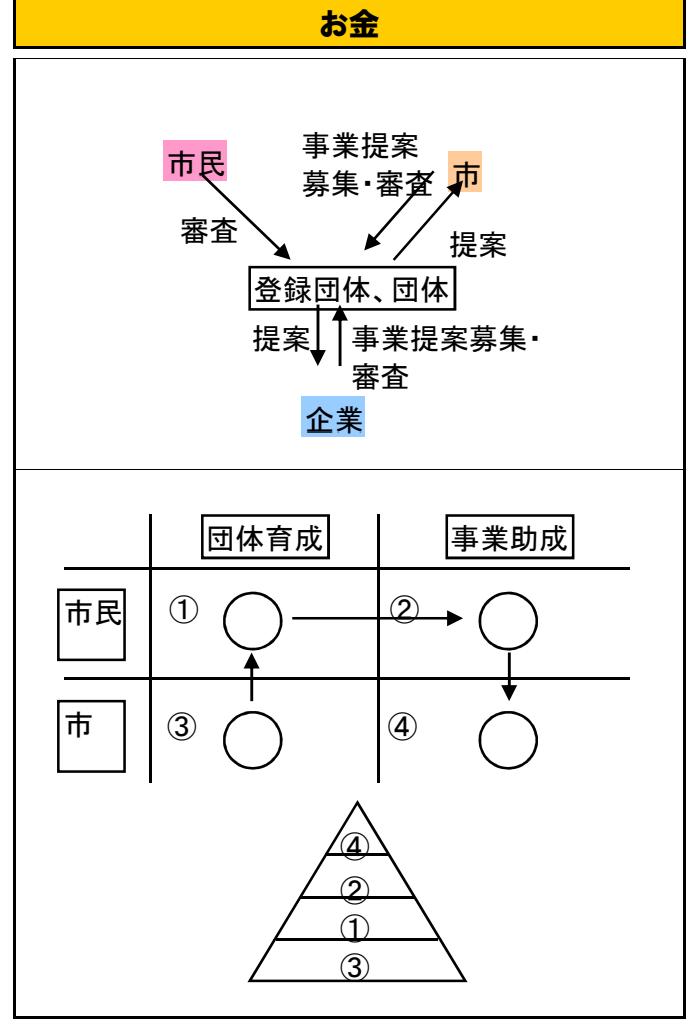
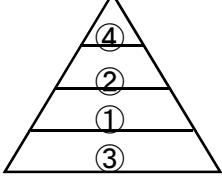
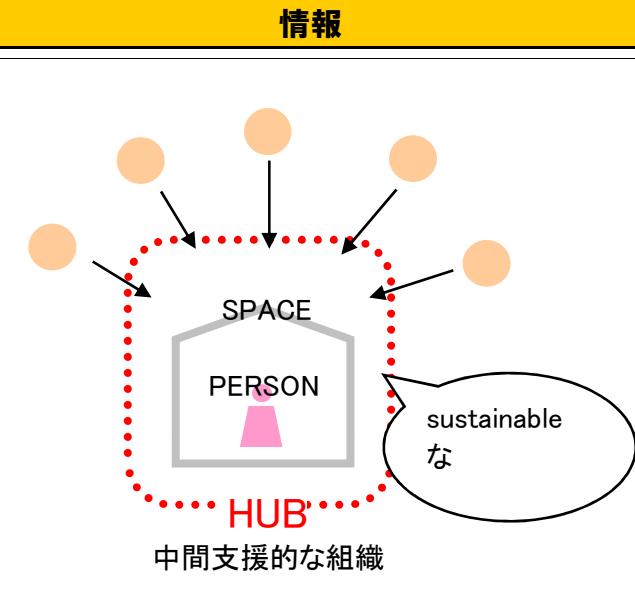


●テーマ研究分科会:その3「協働を推進するための具体的仕組みを提案しよう！」

ひと	場所	お金	情報
協働コーディネーター育成ミッション	①名称 眠れる市民をつき起こせ！	①名称 (仮称)あんねっと基金	①名称 持続可能な市民活動の中間支援の団体の設立
主体 ・市 ・市民協働課が責任 ↓ 対象は? ・3年計画(初・中・上級)目標100人修了 (市職員:70人、市民30人) ・市民(実績・経験のある人)←委嘱 手当	②課題 協働可能なNPO法人(組織化された市民活動団体)が不足している 活動に取り組む市民が少ない	②課題 これから始めようとしている小さな団体向の支援が無い 支援を受ける時の手続きが大変 誰が募金活動を行うのか?(行政の営業活動?) 個人からの寄付が集まらない 個人の寄付、団体の寄付を集める工夫は? 基金の財源が集まらない(寄付意識が低い) 募金→任意で。集める難しさを理解してもらう為には? 募金・寄付金は額が変動する→予算化しにくい 寄付の使われ先が心配 基金の使用目的の明確化 寄付者のメリットは? 企業からの寄付→企業にとってのメリットが要る 寄付したいと思ってもらうにはどうすればいいか 団体支援のためのしくみ作り→具体的な団体	②課題 情報の発信?情報の受信?→両方いるね!! サラダのように、五目ごはんのように キャッチボール 交流 市民主体→団体 市民センターとのコンタクトもできる 協働する 発信する団体を新たにつくる→ホームページ、情報誌、くちこみ ⇒豊後高田 昭和の町 のように! 活動意欲のある市民 つながれったー タケノコのように! 社協がもう少し幅を広げる 主体は何に!?⇒場所がほしい 人もいる
コーディネーターの育成 やっぱり現場を知らないと! フィールドワークが必要 人脈 市民から学ぶ 共に課題を解決する ハイレベルな研修を→ハイレベルとはどれくらい? 人を育てるには時間がかかる ファシリテーター能力は必須	③仕組み 市民活動・ボランティア活動に参加したくなるようなきっかけの場を提供する 協働事業を行う場を提供する	そのためには 関係機関(※)の見える化(情報・人・資材等)→市民が比較できるような情報開示 関係機関(※)の連携 登録情報 支援内容 連絡会議の開催など	課題への対応 ●ハードルが高い →メニューを増やす ●主体 →イベントによる収益を使う(フェスティバルをデンパークでやる等) →安城市+いろんな団体 ●財源の確保 →寄付の普及PR →マッチングギフト ●使い道 →目的つき寄付 ●寄付者のメリット →寄付金控除 →法人税の減税、市民税の控除
コーディネーターの素養 役割りを明確にする 市民から受け入れられる人(信頼) 専門性の高い人 熱意のある人←市民はみている もともとある素質、才能のある人	関係機関(※)とは…?→コーディネーターの存在 市民活動センター 生涯学習ボランティアセンター 社協ボランティアセンター 青少年支援ボランティアセンター 事業所ボランティアセンター 地縁型団体 テーマ型団体	③仕組み HUB的システム → コーディネートなど セツト 団体(市民で構成) → 自立的に生まれない可能性 市が成立を助ける ↓ 交流センター等を活用する	③具体的な仕組み ハブ的な情報システム 既成団体との協働 情報を集める 社協・市民交流センター 市議会議員・市役所 公民館・町内会 活動・場所が必要 場所には人が必要 人・団体のあり方 情報サイト あんみつ⇒ http://www.an-mitsu.jp/ 情報誌↔コーディネーター=かけこみ寺 なこうど ライブラリアン
補足 社協も研修の協力を(協賛) ボランティア+地域福祉 コーディネーターなら社協が責任をもつ 分野を限定すべきでは? 例 ①ボランティアコーディネーター ②地域づくり・防災C ③生涯学習C ④協働コーディネーター(狭義)	その他の議論は裏面へ		

ひと	場所	お金	情報								
<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOが少ない…組織が少ない ・できる事業が少ない…どんな事業があるか考える →センターが育てる ・行政のスリム化…逆に手間がかかる可能性あり ・行政⇒団体 両方がわかるセンターが欲しい ・NPO側から相談→現状は市が一緒に行う ・いろんな協働あり ・本来は自分がやりたい事がある人にボランティアセンターが関わる ・コーディネーター経験がいる(資格を取るだけではない) ・実績がいる(5年くらい) ・初期段階は育成が必要か ・生涯学習: プラネタリウム開設→NPO立ち上げ→委託という一連の流れで5年かかっている、徐々にできあがってきた ・安希の会は協働かな…? ・場所としてできること プラネタリウム、図書館(その中で講座、フリー) 今ある団体を使う: 現状 関わる「人」を増やす←それを提供する「場所」が必要 どのように連携するか(活動の幅が広がる)  <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動をしている事業所と行政の連携がかなり弱い ・実際連携するとなるとなかなか難しい ・全ての地区社協は地域のコーディネート 	 <pre> graph TD Citizen[市民] -- "事業提案募集・審査" --> City[市] City -- "登録団体、団体" --> Organization[企業] Organization -- "事業提案募集・審査" --> Citizen Citizen -- "審査" --> Organization </pre> <table border="1"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">団体育成</td> <td style="text-align: center;">事業助成</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">市民</td> <td style="text-align: center;">①</td> <td style="text-align: center;">②</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">市</td> <td style="text-align: center;">③</td> <td style="text-align: center;">④</td> </tr> </table> 		団体育成	事業助成	市民	①	②	市	③	④	 <p>中間支援的な組織</p>
	団体育成	事業助成									
市民	①	②									
市	③	④									